



management  
経営  
探訪  
interview

## 林業と鉱業の現場で培った実績と技術を 次の時代の事業展開に生かす

戸田鉄工株式会社 代表取締役社長 戸田直人氏

大館市周辺はかつて林業と鉱業の集積地であった。そのため、関係する機材を製造したり整備したりする鉄工所も多かった。戸田鉄工株式会社もその一つ。鉱山の仕事で培った技術は、新幹線のトンネル工事やダム工事にも生かされた。3代目の戸田直人社長に社業の変遷を伺った。

### 林業鉱業で鍛えた技術がベース 創業期から発明的製品が多かった

当社は営林署関係の仕事をしていた私の祖父が昭和22年に創業しました。山で伐採した木材の搬出用の機械や道具をつくっていました。創業期から新しい機械や装置の開発を得意としており、特許を取得した「戸田式〇〇」と呼ばれる製品を数多く生み出しました。中でも、全国の木材運搬トラックに採用された積載梁「戸田式ステッキ」は、作業の安全性と効率性で高く評価され、当社の名を全国区にしています。

昭和40年代は大館市周辺の鉱山の仕事も多く手がけました。坑内機械の整備や、機械や道具類の製造です。鉱山が活況を呈していた時代でしたから、戸田式ステッキと花岡鉱山の仕事が当社の事業の大きな2本柱になっていました。

その後、林業も鉱山も仕事が徐々になくなってきていたのですが、代わりにプラントの仕事を手がけるようになりました。鉱山時代には掘った

鉱石を坑外に出すためのベルトコンベアをつくっていましたが、その経験と蓄積した技術をプラントづくりに応用したのです。一方花岡の事業所のほうでは、特殊車両の整備とリースに事業をシフトしていきました。一般的な建設車両ではなく、主にトンネル工事に使われる車両で、やはり鉱山の仕事を手がけていた実績を生かした事業展開です。

### ダム建設やトンネル工事が得意 今後は公共工事から装置製造へ

かつては東北でもダム工事が頻繁に行われていましたから、現地でコンクリートを生産するための骨材製造プラントを数多く手がけてきました。東北新幹線八戸延伸時と新青森延伸時のトンネル工事でも当社の特殊車両や搬送機械はずいぶん使われました。現在進められている北海道新幹線津軽蓬田トンネルの工事でも当社の機械が使われています。

今はダム工事をはじめとした公共工事がめっきり少なくなってきたので、当社でも太陽光発電の製造装置、半導体の製造装置などの製造に軸足を移す方向で専用工場棟も増築したのですが、2008年9月のリーマン・ショックで想定していた受注が見込めなくなってしまいました。これは大きな誤算でした。

ところが面白いもので、その後、急きょ栃木県の湯西川ダムの骨材プラントを手がける話が舞い込みました。新工場が当初の予定通りに操業していたら引き受けられない話だったので、不思議な偶然を感じたものです。ただ、いずれにしても今は公共工事依存の時代ではないので、今後は装置関係の製造を主に手がけていきたいと考えています。

### 今までになかったものを創り出す 評価される仕事をするのが基本

現在、戸田精工という金型と治工具製造の系列会社があります。大館周辺には金型をつくる会社がないということで、私の父である先代社長が昭和50年に戸田鉄工金型事業部として立ち上げたもので、平成元年に分離独立しました。

円高以降、プラスチック製品の金型はほとんど海外生産になってしまっていて、今、精工で手がけているのはアルミダイキャスト製品用です。そ

れと、汎用工具ではない専門工程のための治工具。大手自動車メーカーのエコカーの生産ラインにも使われていて、一定の需要はあります。

戸田グループでは『仕事の報酬は仕事』という考えを旨としています。評価される仕事をすれば必ずまた次の仕事につながるという考えです。そのために、他社がやりたがらない仕事を引き受けたり顧客の求めに応じて今までになかった機械をつくったりすることもあります。

**戸田鉄工株式会社**  
〒017-0837  
大館市鶴釣字前田45番地  
Tel.0186-49-2525  
Fax.0186-49-2522  
<http://www.e-toda.co.jp/>

半導体製造機器の製造に向けて増築された工場部分。



- A. 戸田直人社長は創業者の孫にあたる。平成12年に社長に就任。
- B. 設備投資には積極的で工場内には多数の機械が並ぶ。
- C. 自社で独自に開発した自由走行可能なクレーン。
- D. 戸田鉄工金型事業部から分離独立した戸田精工の工場。
- E. 金属ブロックから削り出しただけでつくった戸田精工の加工技術紹介モデル。
- F. 戸田鉄工と戸田精工の2社の代表を兼ねる戸田社長。

